Soundcraft® by HARMAN

アナログ・ミキサー

Signature Series

対象製品:Signature10、12、16、22(スタンダードモデル)
Signature12 MTK、22 MTK(マルチトラックモデル)

取扱説明書

お買い上げいただき、誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

2017年11月版

安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

⚠ 警告

■ 必ず AC100V（50Hz/60Hz）の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。

■ 必ず専用の電源コードを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源コードは、他の機器には使用しないでください。

■ 電源コードの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。コードが破損して火災や感電の原因となります。

■ 機器の上に水の入った容器や金属片などを置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると火災や感電の原因となります。

■ 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。

■ 濡れた手で、電源コードや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。

■ 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。

■ 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異状が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。

⚠ 注意

■ 機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。落下によるけがや故障の原因となります。

■ 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。

- 直射日光のあたる場所
- 極度の低温または高温の場所
- 湿気の多い場所
- ほこりの多い場所
- 振動の多い場所
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所

■ 機器の移動は、電源コードや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやコード破損の原因となります。

■ 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。

■ 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。

■ 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源コードを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。

使用上のご注意

取り扱いおよび移動について

本機は堅牢に仕上げられておりますが、以下の点に注意していただくと、より長くご愛用いただけます。

- 正しい内寸で作られた頑丈なフライト・ケースに入れて移動してください。
- フライト・ケースから出して移動する場合は、フェーダーやつまみ、コネクタ部に衝撃を与えないように十分注意してください。
- 移動は全ての配線を取り外してから行ってください。
- 本機の外装を、ベンジンやシンナーなどでふかないでください。変質や塗料がはげる原因になることがあります。外装のお手入れには、乾いた柔らかい布をご使用ください。

設置について

- 高電圧送電ケーブル、ブラウン管、テープ・レコーダー等の強電磁界付近への設置は避けてください。外部からの誘導電界は、音声回路に悪影響を与えます。
- 通気性の良い場所に設置してください。フライト・ケース等に収納したままで使用する場合は、通気スペースを十分に取ってください。その際、通気口は絶対に塞がないでください。

信号レベルについて

各入出力端子の仕様をご確認の上、以下の点に注意して接続を行ってください。

- 接続する入力信号が、適切なレベルか確認してください。適切でないと S/N 比等の特性を悪化させる原因となります。
- バランス入力に同相信号や高周波信号を入力しないでください。また、出力端子に信号を入力することも避けてください。
- アンバランスの信号や、電源内蔵のコンデンサー型マイクロホン、ダイレクト・ボックスをマイク / ライン入力端子に接続する場合は、必ずファンタム電源を OFF にしてください。接続した機器の故障の原因となります。

目次

安全上のご注意 …… 02

使用上のご注意 …… 03

コンソールについて …… 05

コンソールの各部の名称と役割 …… 06

入力および出力 …… 10

- コンソール入力 …… 10
- コンソール出力 …… 11
- その他の I/O …… 12

コンソールルーティング …… 13

- モノラル入力 …… 14
- ステレオ入力 …… 15
- FX リターン …… 16
- AUX バスマスター …… 17
- グループマスター …… 18
- マスターステレオ出力 …… 19

チャンネルコントロール …… 20

- モノラル入力のコントロール …… 21
- ステレオ入力のコントロール …… 25
- FX リターンのコントロール …… 26
- AUX バス出力のコントロール …… 27
- グループマスター出力のコントロール …… 28
- マスターステレオ出力のコントロール …… 29

モニタリング …… 30

USB 動作 …… 32

- スタンダードモデル …… 33
- マルチトラックモデル …… 34

LEXICON FX …… 36

- FX コントロール …… 37
- リバーブについて …… 38
- ディレイおよびモジュレーションについて …… 40

トラブルシューティング (出力されない場合) …… 43

コンソールについて

ミキシングコンソールの主な機能は、様々な入力信号のレベルを調整して組み合わせ、最適なバランスのミックスを作ることです。この基本的な機能によって、ワンマンバンドからオーケストラまで、どのような音声信号もコントロールし、バランスを調整することができます。

通常ミキシングコンソールは、バランスの調整だけでなく多くの機能があります。オペレーターは多彩な機能を駆使して理想のミックスを構成することができます。また、信号をルーティングすることで、外部エフェクターの利用やステージモニターへの出力、ヘッドホンによるモニタリング、およびデジタル入出力などシステムの拡張が行えます。

フェーダーでレベルを視覚化

フェーダーは、信号の相対的なレベルを容易に視認し調整することができます。また、ミックスを視覚化することができます。

様々な入力信号に対応

マイク、ライン、および Hi-Z（ハイインピーダンス）の入力レベルの選択が可能です。コンデンサーマイクロホン用の 48V ファンタム電源も供給できます。また、ゲインコントロールによって、入力ゲインを最適に調整することができます。

ダイナミクス処理

過大な入力信号にはリミッターが作動し、歪みを防ぎます（リミッターは特定のチャンネルのみに搭載）。

イコライザー

ハイパスフィルターや 3 ～ 4 バンド EQ（イコライザー）で、会場に適した音質に補正できます。

出力のオプション

マスターステレオ出力以外に、特定のチャンネルをグループ化して出力するグループマスター出力 ※ や、外部エフェクターやステージモニターに利用することができる AUX バス出力を利用できます。

※ Signature10 を除く

モニタリングシステム

ヘッドホン出力で、最終的な出音の確認はもちろん、選択したチャンネルのみを検聴することができます。マスターステレオ出力のミックスバランスを変更することなく特定の入力信号に集中できます。

Lexicon FX

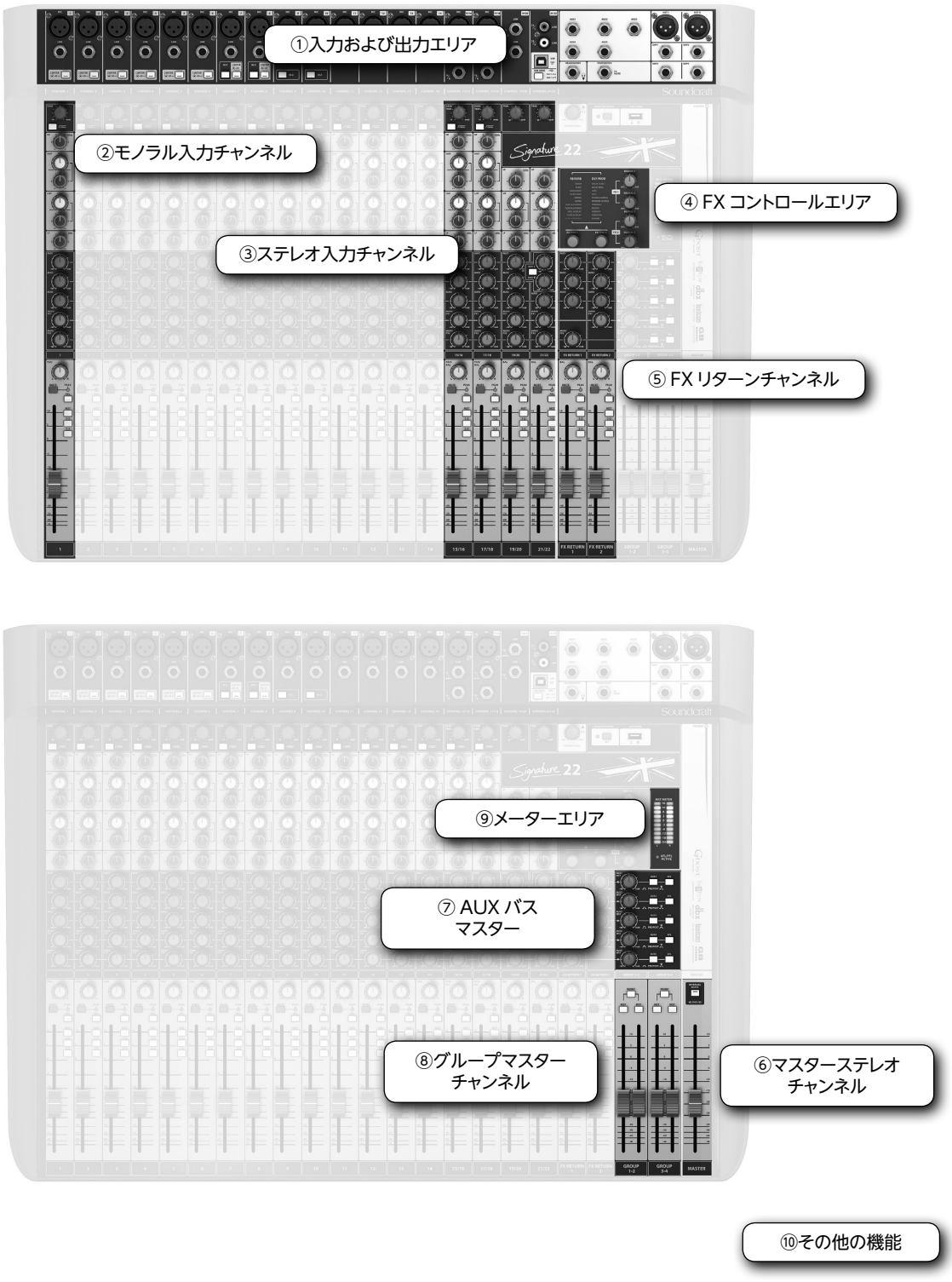
リバーブ、ディレイ、コーラス、フェージングなどの FX（エフェクト）を内蔵プロセッサーにより適用可能です。「アウトボード」機器を追加する必要がなく、貴重な物理的入出力が不足することもありません。

デジタル入力および出力

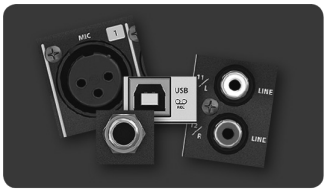
デジタルオーディオシステムやコンピューターベースの DAW の作業には、デジタル I/O が不可欠です。スタンダードモデルは 2 チャンネル入出力、マルチトラックモデルはマルチトラックの入出力に対応しています。

コンソールの各部の名称と役割

本機をエリアに分けて説明します。各エリア名は以下です。エリアの詳細は次ページからの説明をご覧ください。



①入力および出力エリア

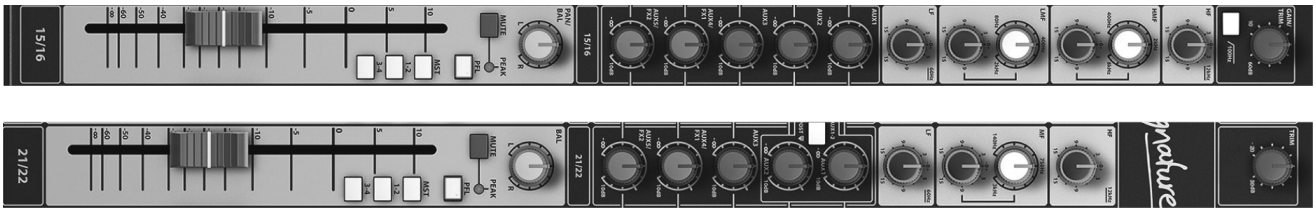


マイクロホン、楽器、ギターなどを接続する入力端子とスピーカーやヘッドホンなどを接続する出力端子を備えています。また、USB 端子からのデジタル出力も利用できます。入出力端子の詳細は P.10 の「入力および出力」、USB 端子については P.32 の「USB 動作」を参照してください。

②モノラル入力チャンネル

モノラル信号を入力し、信号レベル、ルーティング、EQ などをコントロールします。つまみやスイッチの詳細は、P.21 の「モノラル入力のコントロール」を参照してください。

③ステレオ入力チャンネル

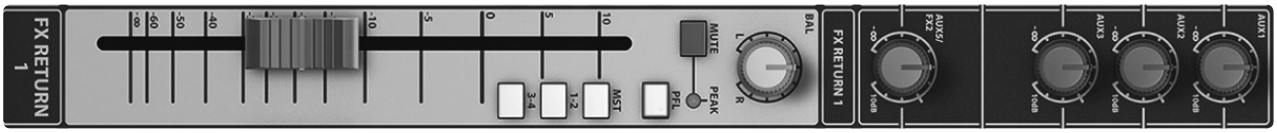


ステレオ信号を入力し、信号レベル、ルーティング、EQ などをコントロールします。本機のステレオ入力チャンネルには 2 タイプあります。標準フォーンジャックによるステレオ入力のほかに、XLR または標準フォーンジャックのいずれかによるモノラル入力が可能なタイプと、RCA 端子によるステレオ入力が可能なタイプです。つまみやスイッチの詳細は、P.25 の「ステレオ入力のコントロール」を参照してください。

④ FX コントロールエリア

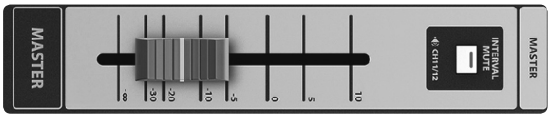
内蔵 Lexicon FX プロセッサーの FX タイプとパラメーターを調整します。詳細は、P.36 の「LEXICON FX」を参照してください。

⑤ FX リターンチャンネル



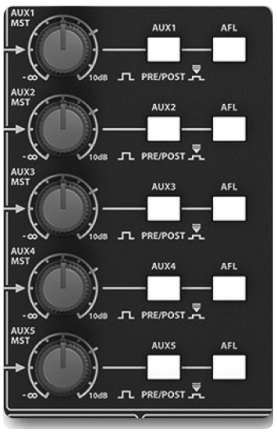
内蔵 Lexicon FX プロセッサーにより処理を行った信号をコントロールします。つまみやスイッチの詳細は、P.26 の「FX リターンのコントロール」を参照してください。

⑥マスターステレオチャンネル



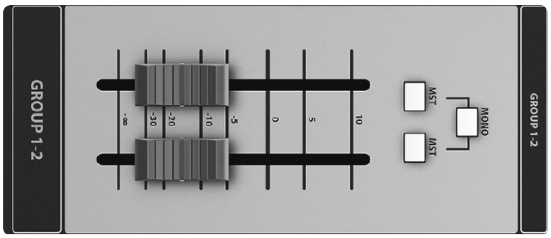
マスターステレオ出力をコントロールします。ステレオ再生チャンネル以外のすべてをミュートする [INTERVAL MUTE] スイッチを備えています。スイッチの詳細は、および P.29 の「マスターステレオ出力のコントロール」を参照してください。

⑦ AUX バスマスター



AUX バスをコントロールします。AUX バス出力のレベルの調整、出力信号をプリフェーダー / ポストフェーダーに切り替えができるほか、ヘッドホン端子へルーティングする [AFL] スイッチを備えています。つまみやスイッチの詳細は、P.27 の「AUX バス出力のコントロール」を参照してください。

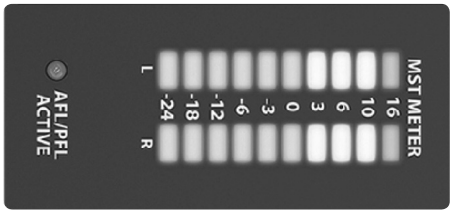
⑧グループマスターチャンネル



グループマスターチャンネルをコントロールします。グループ 1 と 2 の信号は、それぞれを個別、またはサミングしたモノラル信号をマスターステレオチャンネルへルーティングできます (グループ 3 と 4 も同様です)。スイッチの詳細は、P.28 の「グループマスター出力のコントロール」を参照してください。

※ Signature10 を除く

⑨メーターエリア



通常はマスターステレオ出力のレベル (Left/Right) を表示します。メーターの下には [AFL/PFL ACTIVE] インジケーターがあり、[AFL] または [PFL] 機能のいずれかが有効になると点灯します。詳細は、P.30 の「モニタリング」を参照してください。

⑩その他の機能

PHONES LEVEL(ヘッドホン出力レベルコントロール)

ヘッドホン出力のレベルをコントロールします。

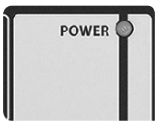
PHONTOM POWER(ファンタム電源 ON/OFF スイッチ)

48V のファンタム電源の供給を ON/OFF します。ON にするとすべてのマイク入力端子に適用され、スイッチ左側の LED が点灯します。

USB POWER（USB 電源ソケット）

LED ランプなどの周辺機器用に電源を供給します。データの通信は行いません。USB2.0 に準拠。この接続には 500mA の電流制限があります。

POWER（電源インジケーター）



本体の電源が ON になると緑色に点灯します。本機には電源スイッチを装備していません。電源コードで本機とコンセントを接続すると電源が ON になります。電源コネクターは本機の裏側にあります。

※電源を ON にする時は、必ずすべての接続機器をミュートしてください。

入力および出力

入力

本機は多種類の入力信号に対応します。最良の結果を得るために適切な接続を行ってください。

MIC — マイク入力

音声信号を入力する端子です（XLR、バランス、2 番ホット）。

コンデンサーマイクロホンを使用する場合は、[PHANTOM POWER] スイッチでファンタム電源供給を ON にしてください。[PHANTOM POWER] スイッチを ON にすると、すべてのマイク入力端子に適用されます。[PHANTOM POWER] スイッチは、マイクロホンを接続した後に ON にし、接続を外す前に OFF にしてください。

LINE — ライン入力

音声信号を入力する端子です（3P 標準フォーンジャック、バランス）。

ギターのピックアップのようなハイ・インピーダンスの信号を直接入力する場合は [Hi-Z] スイッチを備えたチャンネルを使用し、[Hi-Z] スイッチを ON にしてください。

LINE — ライン入力（RCA）

音声信号を入力する端子です (RCA、アンバランス)。

民生用再生機器や楽器用アンバランス入力に利用できます。

出力

アプリケーションに応じた最良の出力およびルーティングを考慮してください。

MST L / MST R　—　マスターステレオ出力（Left/Right）

マスターステレオ出力用の端子です（XLR、インピーダンスバランス、ラインレベル、2 番ホット）。

パワーアンプ、PA システム、レコーダーなどの機器と接続します。

AUX ※　—　AUX バス出力（※には AUX 番号が入ります）

AUX バス出力用の端子です（3P 標準フォーンジャック、インピーダンスバランス、ラインレベル）。

GRP ※　—　グループマスター出力（※には GRP 番号が入ります）

グループマスター出力用の端子です（3P 標準フォーンジャック、インピーダンスバランス、ラインレベル）。

※ Signature10 を除く

HEADPHONES　—　ヘッドホン出力

マスターステレオ出力、または指定したモノラル入力チャンネルまたは AUX バスの信号を出力します（3P 標準フォーンジャック）。

接続するヘッドホンの推奨インピーダンスは 75Ω ～ 200Ω です。
通常はマスターステレオが出力されます。[PFL] スイッチまたは [AFL] スイッチを ON にした場合のみ、ON にした入力チャンネル、または AUX バスの信号が出力され、他のチャンネルはミュートになります。 詳細は、P.30 の「モニタリング」を参照してください。

その他の I/O

USB　—　USB デジタル入出力　※スタンダードモデル

デジタルオーディオ信号の入力および出力用の USB 端子です（B 型）

2 トラックの USB オーディオインターフェースです。ミックスを PC などでレコーディングする際に使用できるほか、PC を再生デバイスとして使用できます。この機能の詳細については、P.32 の「USB 動作」を参照してください。

USB　—　USB デジタル入出力　※マルチトラックモデル

デジタルオーディオ信号の入力および出力用の USB 端子です（B 型、マルチトラック I/O）。

マルチトラック USB オーディオインターフェースです。各入力チャンネルとマスター出力を対応する USB オーディオチャンネルに出力するほか、対応する入力チャンネルでプレイバックできます。
詳細については、P.32 の「USB 動作」を参照してください。

FOOTSWITCH　—　フットスイッチ接続用端子

内蔵 Lexicon FX プロセッサーを ON/OFF する、フットスイッチを接続する端子です (TRS)。

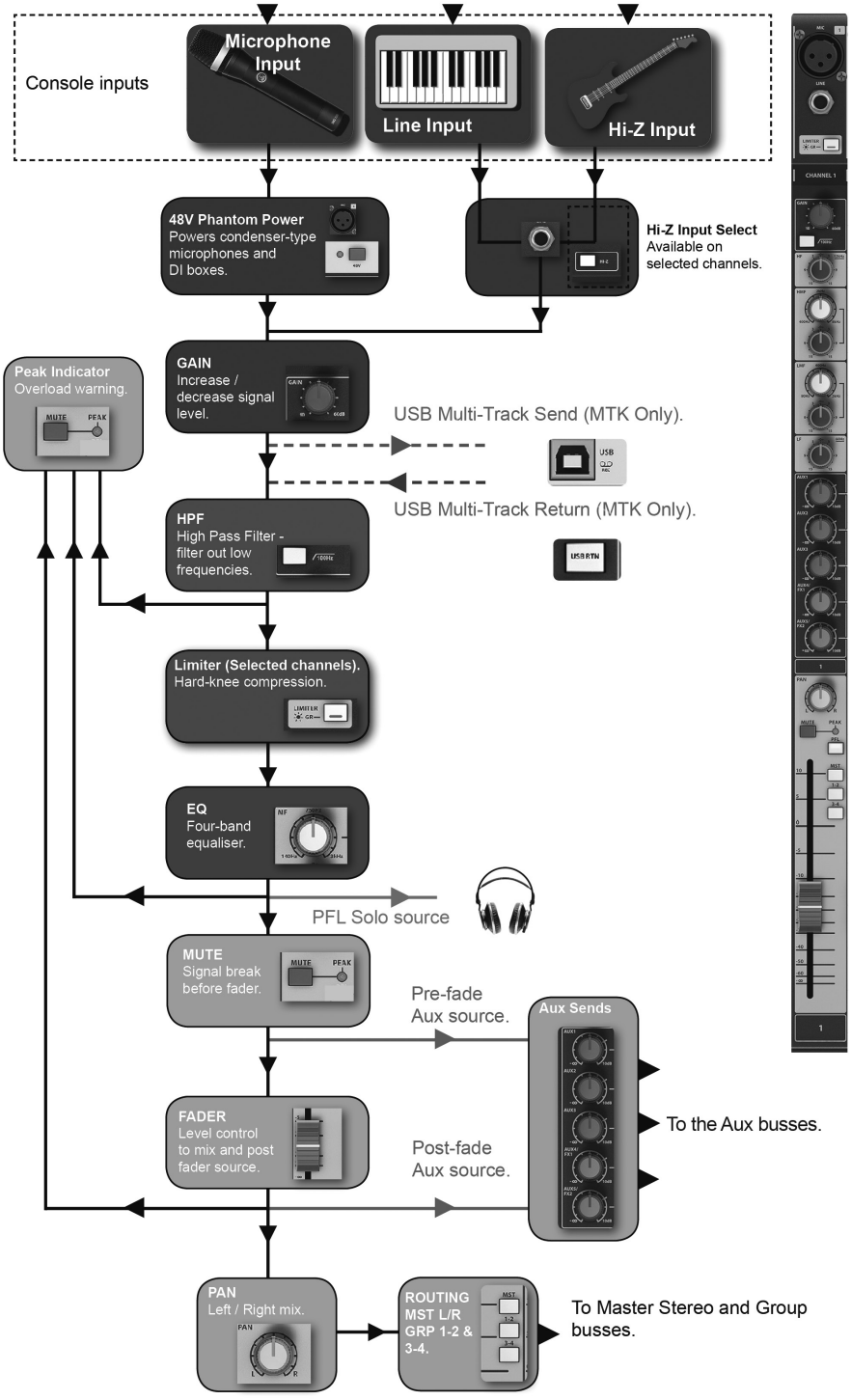
必要とする機能に合ったフットスイッチを利用してください。チップとリングを接続すると、内蔵 Lexicon FX をミュートします。

コンソールルーティング

このセクションでは、簡単なシグナルフロー図とともに、入力チャンネルおよびバスのシグナルパスとルーティングについて解説します。

コンソール内の信号の流れは通常、入力チャンネル（モノラルまたはステレオ）から始まり、ミックスするためにバス（AUX、グループ、マスターステレオ）を経由し、それぞれのチャンネルコントロールを経てマスター出力（AUX マスター、グループマスター、マスターステレオ）へ至ります。また、これとは別にエフェクター用の FX バスやモニタリング用のヘッドホン出力もあります。

モノラル入力



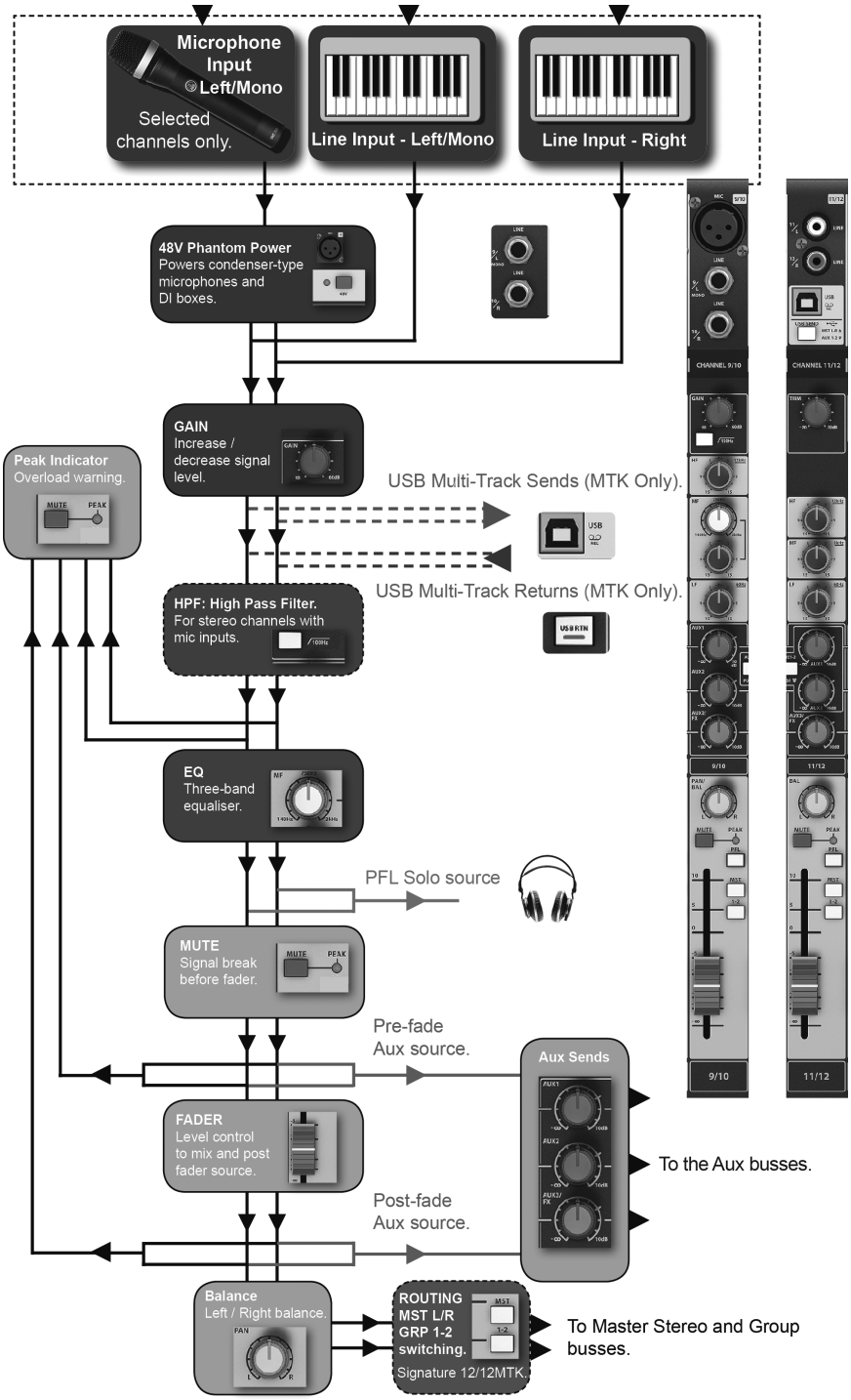
すべてのモノラル入力チャンネルは、マイクレベルを XLR 端子から、ラインレベルを標準フォーンジャックから入力します。特定のモノラル入力チャンネルには、ラインレベルの入力に適用できる [Hi-Z] スイッチや、リミッターを備えており、それぞれスイッチで ON/OFF が可能です。

モノラル入力チャンネルは、AUX バス、マスターステレオバス、グループバス※へ送出可能です。マスターステレオバス、グループバスへは、ポストパンの信号が送られます。グループバスへ送る場合は、[PAN] 調整つまみで設定したバランスにより、L が [グループ 1（または 3）]、R が [グループ 2（または 4）] に送られます。

また、[PFL] スイッチを ON にすると、プリフェーダーの信号をヘッドホン出力へ送出します。

※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。

ステレオ入力



本機のステレオ入力チャンネルのうち、マイク入力を備えたタイプは必要に応じてモノラル入力チャンネルとすることができます（奇数番号入力）。

ステレオ入力チャンネルは、モノラル入力チャンネルと同じルーティングが可能で、AUX バス、マスターステレオバス、グループバス※へ送出できます。AUX バスに送出する場合は、L/R の信号がサミングされます。
マスターステレオバス、グループバスへは、ポストパン / ポストバランスの信号が送られます。グループバスへ送る場合は、[PAN] 調整つまみで設定したバランスにより、L が [グループ 1（または 3）]、R が [グループ 2（または 4）] に送られます。

また、[PFL] スイッチを ON にすると、プリフェーダーの信号をヘッドホン出力へ送出します。

最も大きい番号のステレオ入力チャンネルは、RCA 端子（ラインレベル）からの入力と、USB 端子からのデジタル入力のサミングになります。このチャンネルは、マスター出力チャンネルに搭載した [INTERBAL MUTE] スイッチを利用することで、2 トラック再生チャンネルとして機能します。

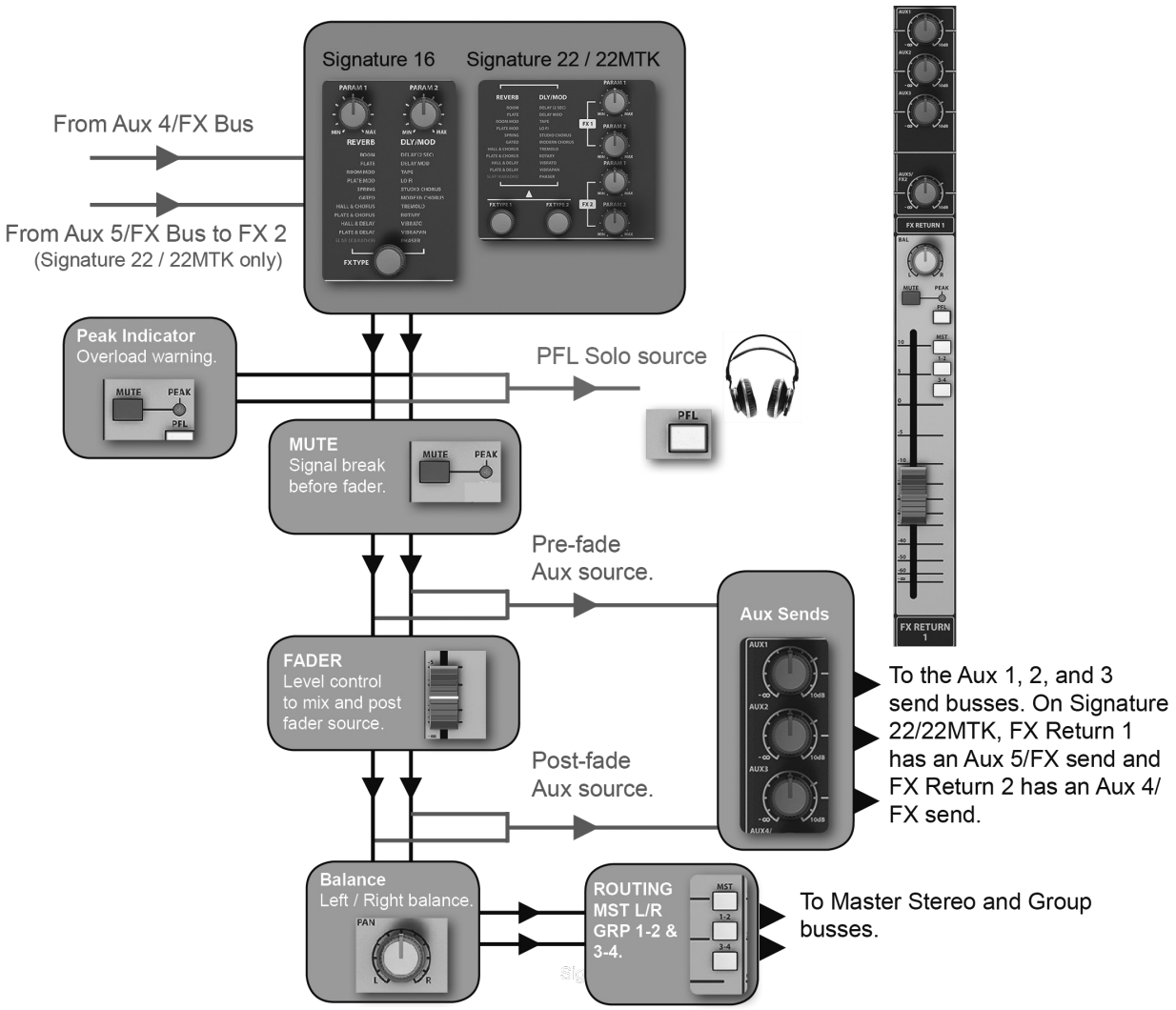
※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。

FX リターン

FX リターンチャンネルは、内蔵 Lexicon FX プロセッサーで処理された信号を入力する、特殊なステレオ入力チャンネルです。

FX リターンチャンネルは、AUX バス※、マスターステレオバス、グループバス ※※ に送出できます。Signature 22 と 22 MTK には、2 系統のエフェクトエンジンを搭載しています。

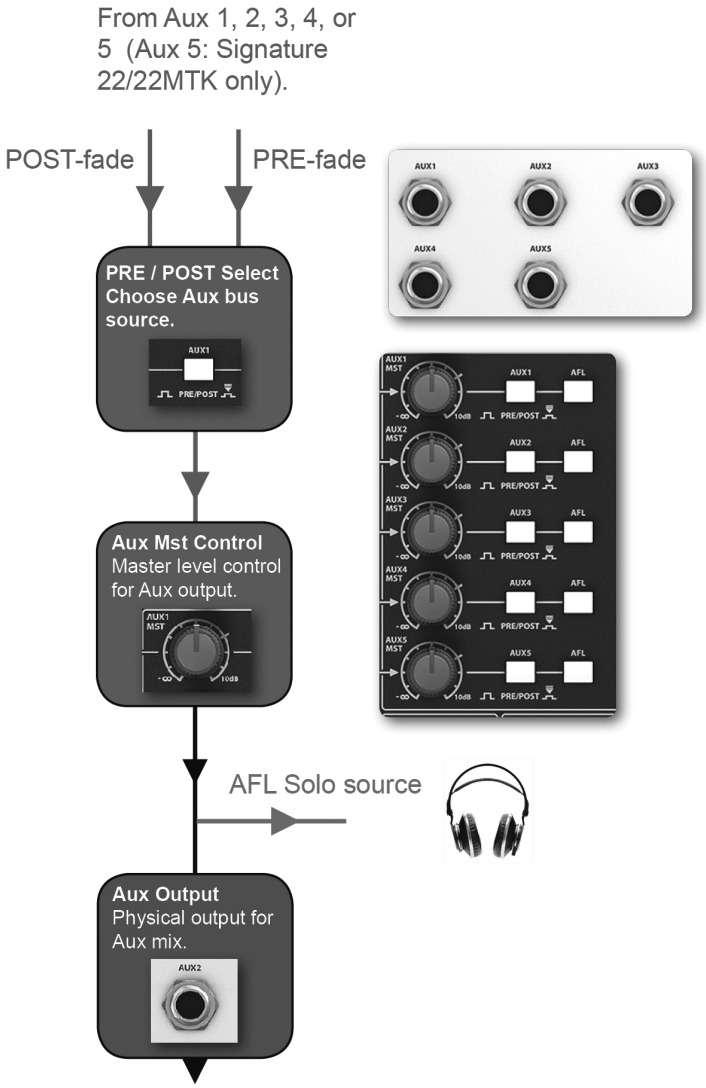
※ FX バスと兼用の AUX バスへは送出できません。
※※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。



AUX バスマスター

入力チャンネルは、AUX レベル調整つまみにより、AUX バスへ送られます。それぞれのバスは AUX バスマスターのレベル調整を経て、AUX バス出力端子から出力されます。[PRE/POST] スイッチで、プリフェーダー / ポストフェーダーの出力切り替えができます。この設定はすべてのチャンネルに適用されます。プリフェーダーに設定すると、AUX バスの信号は、チャンネルフェーダーの設定に影響されません。ポストフェーダーに設定すると、チャンネルフェーダーの設定によりレベルが左右されます。

最も大きい番号のステレオ入力チャンネルは、AUX バス 1 と 2 のみ個別にプリフェーダー / ポストフェーダーの切替えができます。この機能は、AUX バス 1 と 2 をプリフェーダーでステージモニター用として出力している場合などに便利です。例えば、幕間などに再生のみの BGM を出力する時、AUX バス出力をポストフェーダーに切り替えることで、ミュージシャンがステージモニターから再生 BGM を聴くことができます。一方 PA オペレーターは、チャンネルの [PFL] スイッチを ON することで、プリフェーダーの信号をヘッドホンで検聴できます。
詳細は、P.30 の「モニタリング」を参照してください。



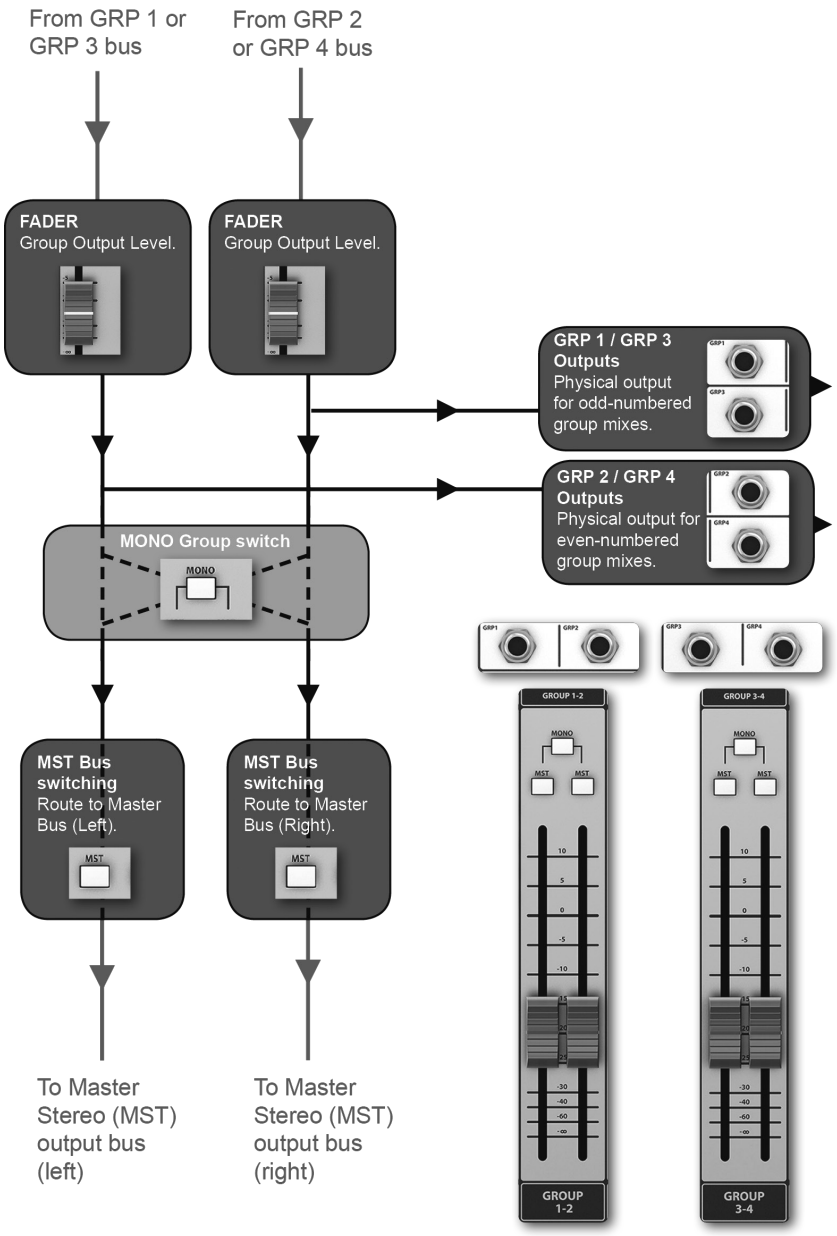
グループマスター

グループマスター出力は、モノラル入力チャンネルのポストフェーダー、ポストパンのサミングです。[1 - 2]（または [3 - 4] スイッチ）で指定したチャンネルがルーティングされます。

グループマスターチャンネルは、マスターステレオバスに送出できます。

例えば、モノラル入力チャンネルのグループ（ドラムセットのマイキングやコーラス歌手などの複数のマイクロホンがある場合）をグループバスに送ると、それぞれのチャンネルを相対的にレベル調整したまま、グループ化できます。さらに、グループバスをマスターステレオバスにルーティングすると、グループチャンネルフェーダーでグループ全体のレベルを調整できます。

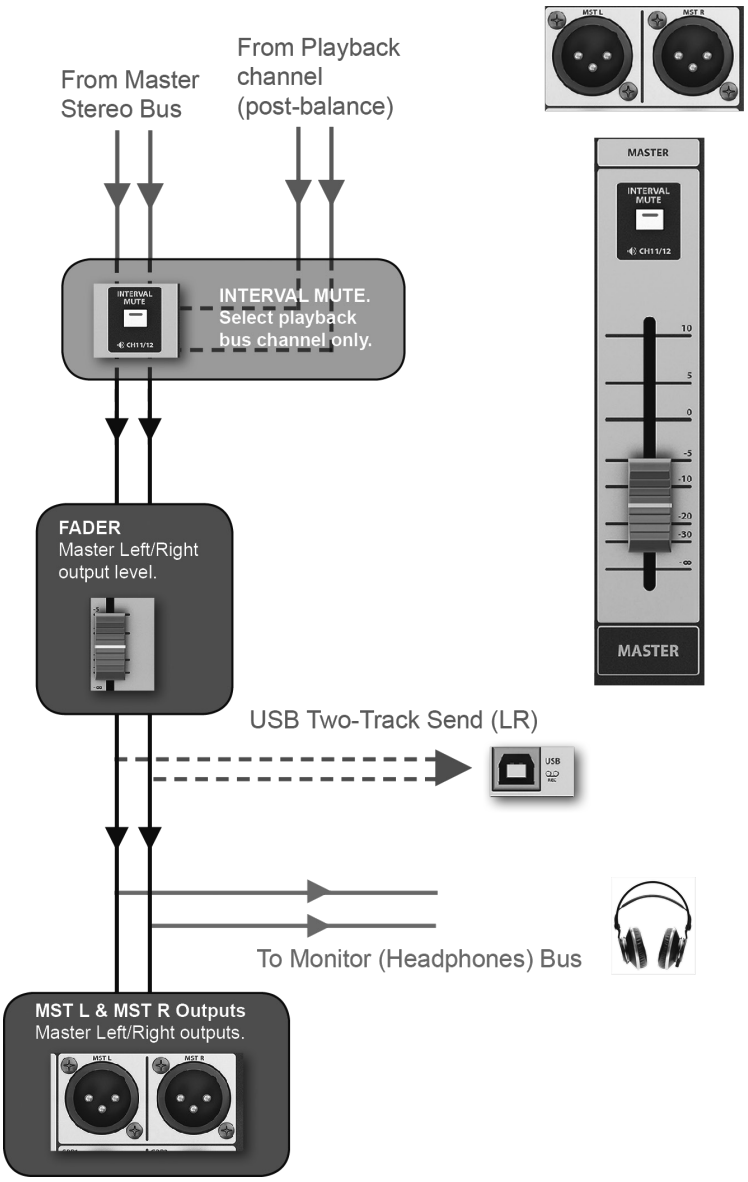
※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。



マスターステレオ出力

マスターステレオ出力は、マスターステレオバスに送られた信号が出力されます。モノラル入力チャンネルの [MST] スイッチを押すことで、マスターステレオバスにルーティングすることができます。

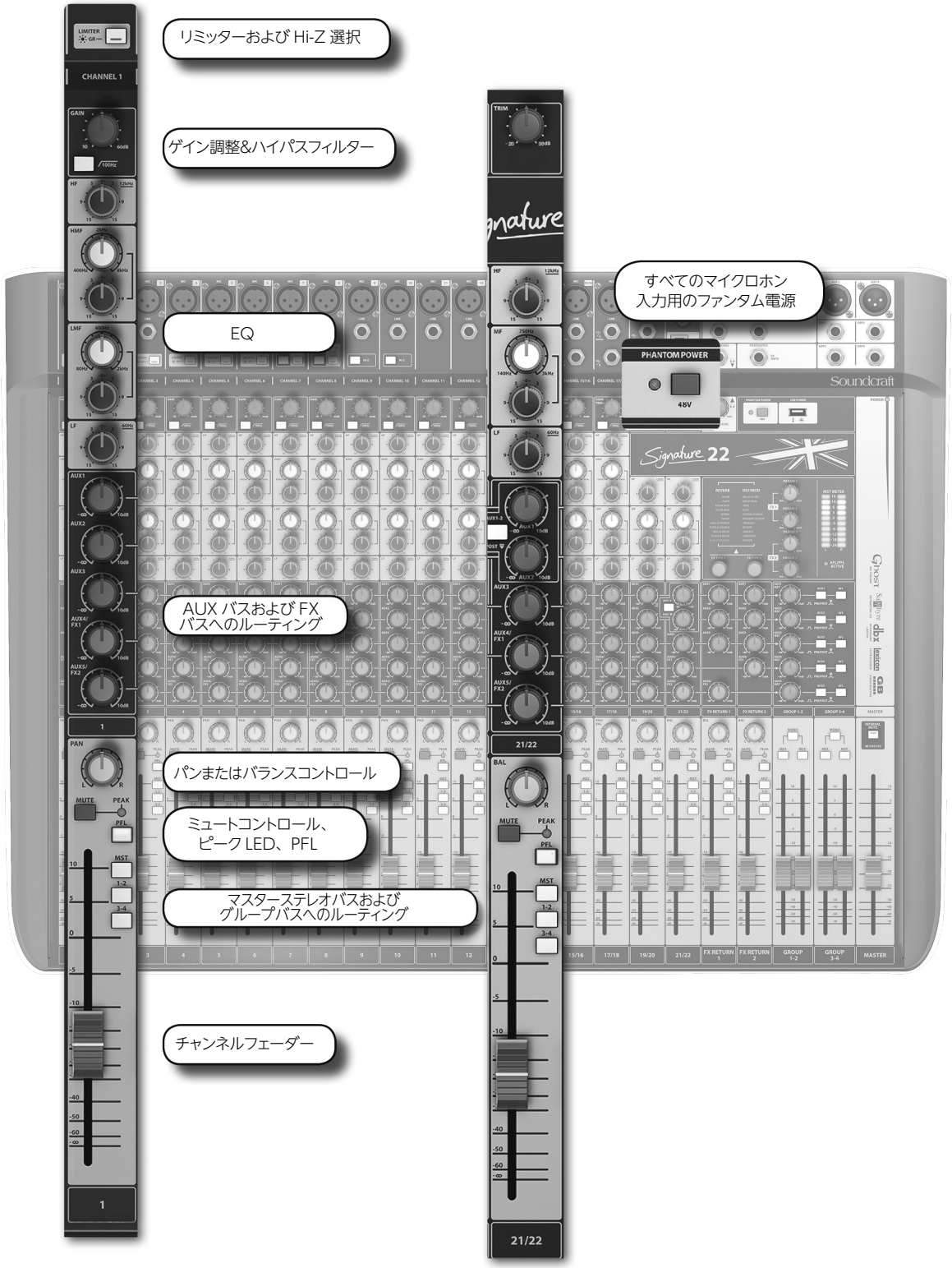
※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。



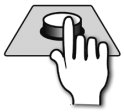
チャンネルコントロール

本機のストリップの上から下に向かってチャンネルのコントロールを説明します。これは必ずしも信号パスの順序ではありません。信号パスは、P.14 の「コンソールルーティング」を参照してください。

すべての入力チャンネルに共通しているコントロールは、P.21 の「モノラル入力のコントロール」で説明しています。ステレオ入力チャンネルと FX リターンチャンネルに特有のコントロールまたは説明は、P.25 の「ステレオ入力のコントロール」と P.26 の「FX リターンのコントロール」にそれぞれ記載しています。



モノラル入力のコントロール



LIMITER — リミッタースイッチ

入力リミッターを ON/OFF します。

信号のピークを抑制してオーディオのクリッピングを予防します。定評ある dbx 製のリミッターを搭載しています。

GR — ゲインリダクション LED

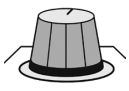
リミッターがゲインリダクション動作を行うと LED が点灯します。

ゲインリダクションが多く作用するほど、LED の光は強くなります。

HI-Z — HI-Z ON/OFF スイッチ

ライン入力を「Hi-Z」（ハイインピーダンス）モードに切り替えます。

押すと ON になります。[Hi-Z] モードを ON にすると、入力信号に対して大きな負荷インピーダンスを持つようになり、ギター、ベース、その他の楽器のピックアップのようにハイインピーダンスの信号をコンソールに直接接続できます。[Hi-Z] スイッチを ON にせずにハイインピーダンスの接続を行うと、高周波のレスポンスが劣化します。



GAIN — 入力ゲイン調整つまみ

入力ゲインを調整します。

ゲインの範囲は +10dB ～ +60dB です。ゲインを上げる際は、音を聞く、および入力チャンネルの [PEAK] LED をチェックして、クリッピングによる歪みを防いでください。入力機器を接続する前には、ゲインを下げて突発的なノイズを予防してください。

HPF 100Hz — ハイパスフィルタースイッチ

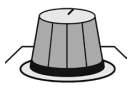
ハイパスフィルターの ON/OFF をします。

押すと ON になります。ハイパスフィルター（HPF）を ON にすると、100Hz 以下の信号成分が 18dB/oct で減衰します。マイクロホンからの低域ノイズの除去に役立ちます。

USB RTN　—　USB リターンチャンネルスイッチ　※ マルチトラックモデル

USB オーディオチャンネルを入力チャンネルに入力（リターン）します。

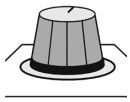
押すと ON になります。ON にしたチャンネルは、該当番号の USB オーディオチャンネルの信号（プリ HPF/EQ）に置き換わります。リターンされた USB オーディオチャンネルの信号は、入力時に 10dB 減衰します。詳細は、P.32 の「USB 動作」を参照してください。



HF　—　高域 EQ レベル調整つまみ（± 15dB）

高域シェルビングフィルターのブースト / 減衰を調整します。

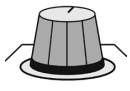
HF シェルビングフィルターの周波数は、12kHz 固定です。これ以上の周波数のゲインをつまみで調整しブースト / 減衰を設定します。



MF または HMF/LMF(周波数)　—　中域または高中域 / 低中域 EQ 周波数調整つまみ

中域または高中域 / 低中域フィルターの中心周波数を調整します。

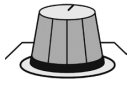
本機の中域または高中域 / 低中域 EQ は、ベルタイプのフィルターです。このつまみで、ベルの中心周波数を決定します。中域は、140Hz（ほぼ C3 音）～ 3kHz（ほぼ F ＃ 7 音）、高中域は、400Hz（ほぼ G3）～ 8kHz（ほぼ B8）、低中域は 80Hz（ほぼ D#1）～ 2kHz（B6）の範囲で調整します。



MF または HMF/LMF（レベル）　—　中域または高中域 / 低中域 EQ レベル調整つまみ（±15dB）

中域または高中域 / 低中域フィルターのブースト / 減衰を調整します。

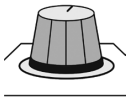
周波数調整つまみで中心周波数を設定した帯域のブースト / 減衰量を設定します。本機に搭載している EQ は、非対象 EQ で、ブーストは広帯域（低 Q）、減衰は狭帯域（高 Q）となっています。



LF　—　低域 EQ レベル調整つまみ（± 15dB）

低域シェルビングフィルターのブースト / 減衰を調整します。

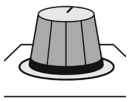
LF シェルビングフィルターの周波数は、60Hz 固定です。これ以下の周波数のゲインをつまみで調整しブースト / 減衰を設定します。



AUX ※ — AUX レベル調整つまみ（※には AUX 番号が入ります）

指定の入力チャンネルを AUX バスへ送出するレベルを調整します。

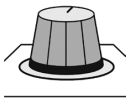
AUX バスは、入力チャンネルを「別」ミックスしたものです。例えば AUX 1 バスに送られる信号は、AUX 1 レベル調整つまみが−∞（OFF）以外に設定された入力チャンネルの信号で、レベル調整つまみの設定に応じてミックスされます。この機能は、ステージモニターのためのミックスや外部 FX プロセッサーへの「センド」などに使用できます。AUX バスに送る信号は、AUX バスマスターエリアの [PRE/POST] スイッチにより、プリフェーダーまたはポストフェーダーを切り替え可能です。



AUX ※ /FX — AUX レベル調整つまみ、FX レベル調整つまみ（※ には AUX 番号が入ります）

指定の入力チャンネルを AUX バス、および FX バスへ送出するレベルを調整します。

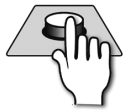
AUX バスと FX バスは独立していますが、送出レベルの設定は共通です。FX バスへの送出は常にポストフェーダーなので、エフェクターに加わる信号の量は、ミックスに加わる量に比例します。信号を AUX バスへ送る場合は、AUX バスマスターの [PRE/POST] スイッチにより、プリフェーダーまたはポストフェーダーを切り替え可能です。



PAN — 定位調整つまみ

ステレオの定位とグループバスへのルーティングを調整します。

[PAN] つまみの設定は、マスターステレオチャンネルの Left/Right の定位に影響します。グループバスに送出する場合は、グループ 1、3（Left）およびグループ 2、4（Right）に送る信号の比率も決定します。例えば、モノ入力チャンネルの [1-2] スイッチと [MST] スイッチを ON にし、[PAN] つまみを右に回し切ると、マスターステレオチャンネルの Right 側およびグループマスターチャンネルのグループ 2 に、信号がルーティングされます。



MUTE — ミュートスイッチ

信号のミュートを ON/OFF します。

押すと ON になります。プリフェーダーミュートであり、AUX バス、マスターステレオバス、グループバスへのすべての経路をミュートします。ON にすると、[PEAK (&Mute)] LED が点灯します。この設定は、マルチトラックモデルの USB オーディオチャンネルには影響しません。

PEAK LED — ピーク / ミュート LED

信号がピークレベルに達するか、入力チャンネルのミュートが ON になると点灯します。

ピーク LED は、信号がクリップ・レベルに近づいたことを知らせる警告灯です。ハイパスフィルターの後、EQ の後、チャンネルフェーダーの後の信号を監視します。コンソールのヘッドルームの制限を超えて信号が増幅されると、クリッピングノイズが発生します。

PFL — プリフェーダー検聴スイッチ (Pre Fader Listen)

ON にしたチャンネルの信号をヘッドホン出力に送ります。

押すと ON になります。ON にしたチャンネル以外のチャンネルはミュートします。詳細は、P.30 の「モニタリング」を参照してください。

1 - 2 / 3 - 4 — グループバス送出スイッチ

チャンネル出力をグループバスにルーティングします。

押すと ON になります。ON にしたチャンネルをグループバスに送出します。[PAN] つまみの設定は、グループ 1、2 またはグループ 3、4 へ送る信号の比率を決定します。

※ Signature 10 を除く。Signature 10 は、すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。

MST — マスターステレオバス送出スイッチ

チャンネル出力をマスターステレオバス（Left/Right）にルーティングします。

押すと ON になります。ON にしたチャンネルをマスターステレオバスに送出します。[PAN] つまみの設定は、マスターステレオチャンネルの Left および Right 信号の比率を決定します。

※ Signature 10 を除く。Signature 10 は、すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。

チャンネルフェーダー

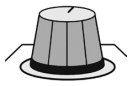
チャンネルの信号レベルを調整します。

−∞（無信号）～ +10dB の範囲でレベルを調整します。0dB ラインは、ユニティ（レベル変化なし）を表します。各入力チャンネルのフェーダーは、マスター出力（マスターステレオ、グループマスター）のミックスを決定します。また、ポストフェーダーに設定した AUX バスのミックスを決定します。

ステレオ入力のコントロール

本機のステレオ入力チャンネルには 2 タイプあります。標準フォーンジャックによるステレオ入力のほかに、XLR または標準フォーンジャックのいずれかによるモノラル入力が可能なタイプと、RCA 端子によるステレオ入力が可能なタイプです。

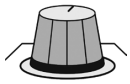
注 : すべての入力チャンネルに共通なコントロールについては、モノラル入力チャンネルで説明しています。P.21 の「モノラル入力のコントロール」を参照してください。



TRIM　—　トリムつまみ　※最も大きい番号のステレオ入力チャンネルのみ

入力レベルを調整します。

ステレオラインレベルの音源に適した調整範囲で入力レベルを調整します。



AUX ※、AUX ※ /FX　—　AUX レベル調整つまみ（※ には AUX 番号が入ります）

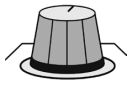
指定の入力チャンネルを AUX バスへ送出するレベルを調整します。

モノラル入力チャンネルと同様です。ただし、AUX バスに送るステレオ入力信号は、Left/Right のモノラルミックスになります。

AUX 1-2 POST　—　ポストフェーダー ON スイッチ　※ 最も大きい番号のステレオ入力チャンネルのみ

ポストフェーダーを ON にします。

このスイッチは、最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（再生チャンネル）のみに装備しています。押すと ON になります。ON にすると、AUX バス 1 と 2 の出力信号をポストフェーダーにします。

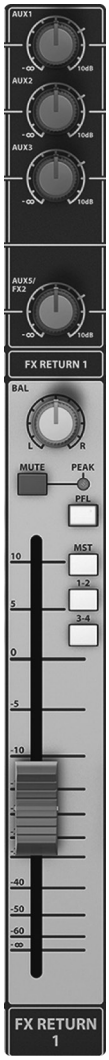


PAN/BAL　—　定位 / バランス調整つまみ

ステレオの定位または Left/Right のレベルバランスを調整します。

ステレオ入力の場合、左右の信号の相対レベルを調整するバランスコントロールであり、ステレオ音像全体の定位を効果的に調整できます。ステレオ入力チャンネルがモノラル入力として使用されていて、グループバスに送る場合、[PAN/BAL] つまみで設定したバランスにより、L がグループ 1 または 3、R がグループ 2 または 4 に送られます。

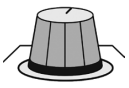
FX リターンのコントロール



FX リターンチャンネルは、内蔵 Lexicon FX プロセッサーで処理された信号を入力する、特殊なステレオ入力チャンネルです。

例えば、リバーブを適用する場合を考えます。各入力チャンネルからエフェクトを適用したい信号を FX バスに送出します。[AUX ※ /FX]（※には AUX 番号が入ります）つまみを操作して、FX プロセッサーが生成する残響フィールドの中にそのソースがどの程度存在するかをコントロールします。FX リターンチャンネルのフェーダーは、ミックス内における残響フィールド全体のレベルをコントロールします。
FX バスへの送出は、ポストフェーダーなので、残響フィールドに対する入力チャンネルの寄与量は、メインミックスに対するそのチャンネルの寄与量に比例します。

※ Signature 22 および 22 MTK には、2 系統の FX リターンチャンネルを装備しています。



BAL　—　バランス調整つまみ

Left/Right のレベルバランスを調整します。

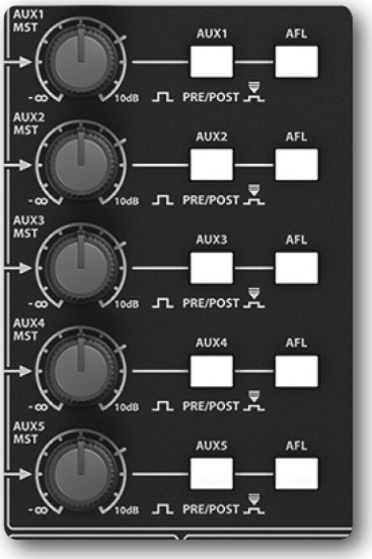
ステレオマスターバスの左右の信号の相対レベルを調整するバランスコントロールであり、ステレオ音像全体の定位を効果的に調整できます。グループバスへ送る場合は、[BAL] つまみで設定したバランスにより、L がグループ 1 または 3、R がグループ 2 または 4 に送られます。

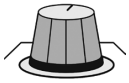
FX リターンチャンネルフェーダー

ミックス内における残響フィールド全体のレベルをコントロールします。

AUX バス出力のコントロール

AUX バスマスターは、AUX バスの出力をコントロールします。





AUX ※ MST　—　AUX バス出力レベル調整つまみ（※ には AUX 番号が入ります）

各 AUX バスの出力レベルを調整します。

AUX ※ PRE/POST　—　AUX バス出力プリ / ポストフェーダー切替スイッチ（※ には AUX 番号が入ります）

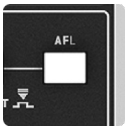
AUX バスの出力をプリ / ポストフェーダーで切り替えます。

AUX バスに送出する信号がチャンネルフェーダーに影響されるかを設定します。最も大きい番号のステレオチャンネル(再生チャンネル）は、独立したプリ / ポストフェーダー設定スイッチがあります（AUX 1 と 2 のみ)。

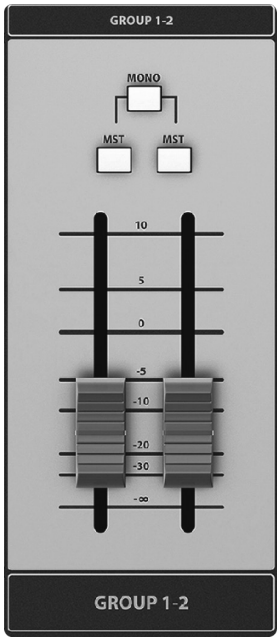
AFL　—　ポストフェーダー検聴スイッチ (After Fader Listen)

信号をヘッドホン出力へルーティングし、他のチャンネルはミュートします。

押すと ON になります。ON にすると、ヘッドホン出力は [AFL] スイッチで指定したバスのみを出力します。詳細は、P.30 の「モニタリング」を参照してください。

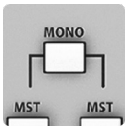


グループマスター出力のコントロール



グループマスターチャンネルは、グループマスター出力のレベルとルーティングをコントロールします。指定した入力チャンネルのポストフェーダーの信号をグループチャンネルへルーティングできます。入力チャンネルの [PAN] または [BAL] つまみはグループ バスに送出する信号量の比率を決定します。L 側がグループ 1（または 3）、R 側がグループ 2（または 4）です。

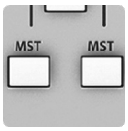
※ Signature 10 には、グループバスを装備していません。すべての入力チャンネルがマスターステレオチャンネルへルーティングされます。



MONO — モノラルスイッチ

マスターステレオチャンネルへの送出をモノラル信号にします。

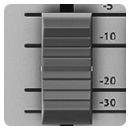
押すと ON になります。ON にすると、グループバスの信号をマスターステレオ出力にルーティングするときに両方のグループバスのサミングを送出します。物理的なグループ出力は独立のままです。



MST — マスターステレオバス送出スイッチ

グループチャンネルを物理的なグループ出力に加え、マスターステレオバスにもルーティングします。

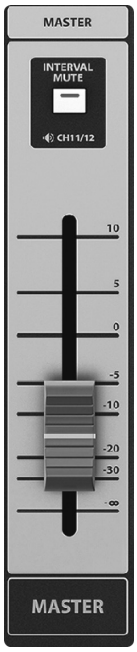
押すとONになります。ONにしたグループチャンネルをマスターステレオバスに送出します。グループ 1（と 3）は L 側に、グループ 2（と 4）は R 側に出力します。 [MONO] スイッチが ON の時は、[MONO] スイッチの設定が優先されます。



グループマスターフェーダー

グループバスのレベルを調整します。

マスターステレオ出力のコントロール

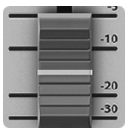


マスターステレオチャンネルは、[MST L] および [MST R] の端子から出力する信号のレベルを決定します。

INTERVAL MUTE — INTERVAL MUTE ON/OFF スイッチ

最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（再生チャンネル）以外をミュートします。

押すと ON になります。ON にすると、最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（再生チャンネル）以外をミュートします。他のコントロールを変更せずに、出力を入力音源の再生のみに転換する場合などに利用できます。再生する入力機器は最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（RCA 端子）に接続してください。
注：AUX バス出力およびグループマスター出力はミュートされません。

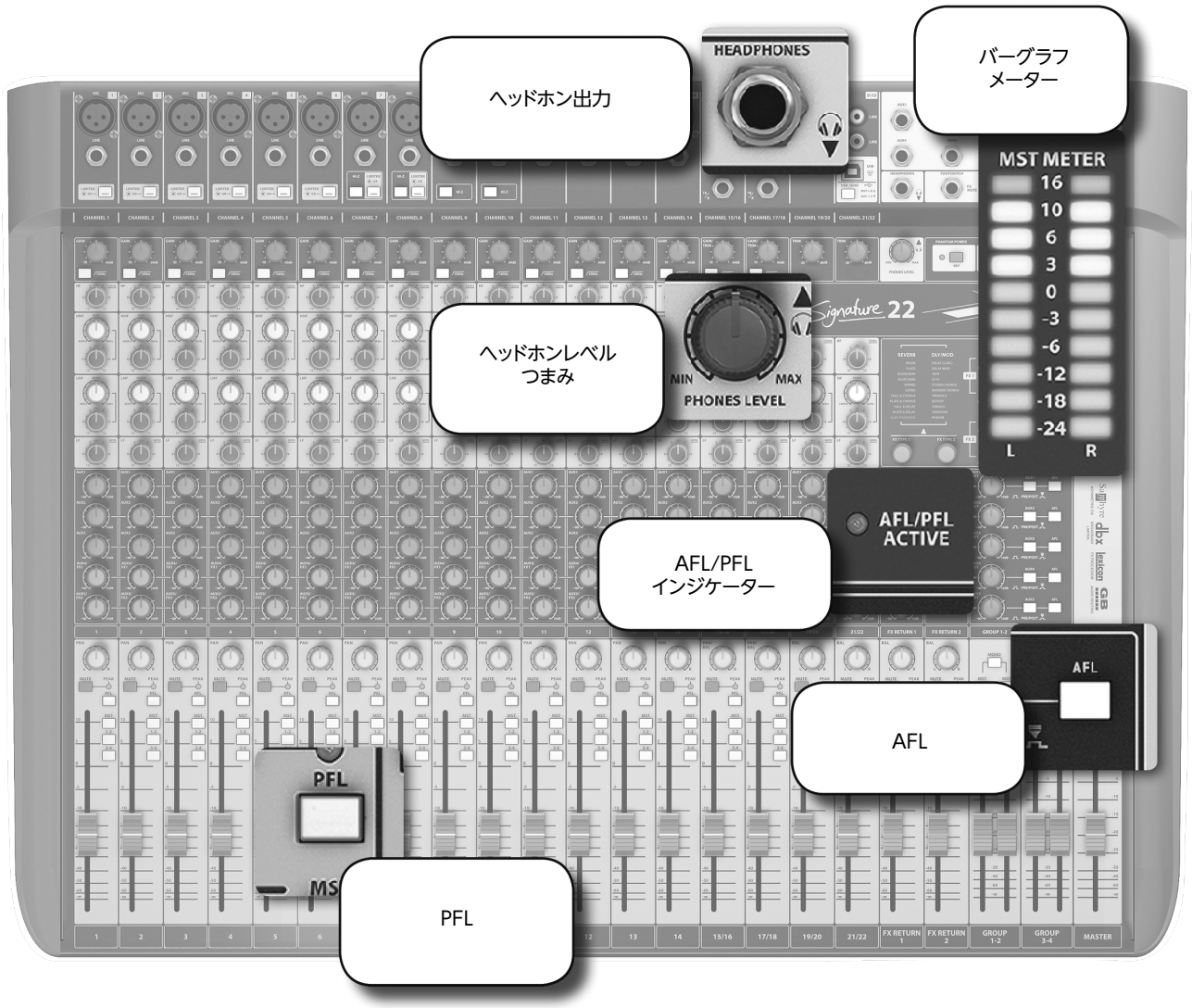


マスターフェーダー

マスターステレオ出力のレベルを調整します。

モニタリング

チャンネルの音を個別にモニタリングする機能は、ミックスエンジニアにとって重要なツールです。[PFL](Post Fader Listen) を使用すると、ミックスのバランスを変更せずにステージからのソースをチェックすることができます。[AFL](After Fader Listen) を使用すると、AUX バスおよび FX センドをチェックできます。



本機は、マスターステレオ出力、または任意のチャンネルをヘッドホンで検聴できます。

入力チャンネルの [PFL] スイッチを ON にすると、そのチャンネルのプリフェーダー（プリミュート、ポスト EQ）がヘッドホン出力に送られ、ヘッドホン出力が検聴モードに切り替わります。

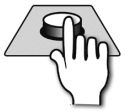
AUX バスマスターエリアの [AFL] スイッチを ON にすると、そのバスのポストフェーダー（AUX バス出力のレベル調整後）がヘッドホン出力に送られます。

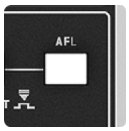
複数の [PFL] または [AFL] を ON にすると、そのチャンネルの信号がサミングされてヘッドホン出力に送られます。[PFL] または [AFL] が OFF の場合は、ヘッドホン出力からマスターステレオ出力が出力されます。

PFL — プリフェーダー検聴 ON/OFF スイッチ（Pre Fader Listen）

プリフェーダーの信号をヘッドホン端子へ送ります。

押すと ON になります。ON にした入力チャンネルのプリフェーダー、プリミュート、ポスト EQ の信号を、ヘッドホン端子へ送り、それ以外のチャンネルをミュートします。ON にすると、[AFL/PFL ACTIVE] インジケーターの LED が赤く点灯します。

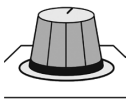




AFL — ポストフェーダー検聴 ON/OFF スイッチ（After Fader Listen）

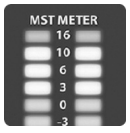
ポストフェーダーの信号をヘッドホン端子へ送ります。

押すとONになります。ONにしたAUXバス出力のポストフェーダー信号をヘッドホン端子へ送り、それ以外のチャンネルをミュートします。ON にすると、[AFL/PFL ACTIVE] インジケーターの LED が赤く点灯します。



PHONES LEVEL — ヘッドホン出力レベルコントロールつまみ

ヘッドホン出力のレベルを調整します。



バーグラフメーター

[AFL] または [PFL] が有効な場合は、ヘッドホン出力のレベルを表示します。それ以外の場合は、マスターステレオチャンネルのレベルを表示します。

AFL/PFL ACTIVE — AFL/PFL インジケーター

[AFL] または [PFL] が ON になると点灯します。

USB動作

本機は、USB 2.0 のオーディオストリーミングをデジタルオーディオの送受信として使用します。スタンダードモデルは 2 トラックの入出力が可能。マルチトラックモデルは、すべてのチャンネルの入出力と、マスターステレオの出力が可能です。

USB インターフェースは、MAC、iOS（iPad)、Windows と互換性があります。iPad との接続には、マルチトラックの入出力が可能な接続ケーブルが必要です。

USB インターフェース互換性：PC: Windows 7/Windows 8/Windows 10
Mac: Mac OS 10.7.x Lion ～ 10.11.x El Capitan
iPad：対応機種、対応ケーブルについてはお問い合わせください。

マルチトラックの録音 / 再生を行うためには、PC にサードパーティのオーディオ・ドライバーの使用を可能にする DAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション) をインストールする必要があります。

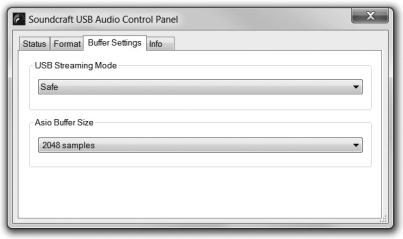
■ コンピューターと接続するとき

USB 端子を使用して Windows PC と接続する場合は、PC に専用のオーディオ・ドライバーをインストールする必要があります。ドライバーのインストール手順は以下の通りです。Mac PC はドライバーをインストールする必要はありません。

1. Soundcraft web サイト (www.soundcraft.com) の以下の場所にあるオーディオ・ドライバー「Soundcraft Multichannel USB Audio Driver」をダウンロードします。

Products → Mixing Consoles → Signature Series または Signature MTK Series → お使いの製品 → (ページ下部、左メニュー) Downloads 内、Software

2. 本機の USB 端子と PC の USB 端子を USB ケーブルで接続します。
3. 本機の電源を入れます。
4. ダウンロードしたファイルを解凍します。解凍後のファイルをダブルクリックするとインストールが開始されます。表示に従ってインストールを進めてください。正常にインストールが完了すると、タスクバーに「Soundcraft USB Audio Control Panel」が追加されます。
5. 最後に PC を再起動すれば、インストールが完了します。「Soundcraft USB Audio Control Panel」では、接続されているミキサーの確認、ストリーミングモードやバッファーサイズの設定が行えます。確認や設定を行いたい場合は、タスクバーの「Soundcraft USB Audio Control Panel」をクリックして、コントロールパネルを表示させてください。



※ オーディオ・ドライバーはアップデートされることがあります。詳細は Soundcraft web サイトをご覧ください。

スタンダードモデル

スタンダードモデルは、2 トラック USB 入力 / 出力機能を備えています。
マスターステレオ出力または AUX バス 1 と 2 を、USB オーディオチャンネル 1 と 2 に送出できます。また、USB オーディオチャンネルは、最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（再生チャンネル）でプレイバックできます。
例えば、ミックスを PC またはタブレットにレコーディングする際に使用できるほか、PC を再生デバイスとして使用できます。

USB　—　USB デジタル入出力端子

デジタルオーディオ信号の入力および出力用の USB 端子です（B 型）

マスターステレオ出力または AUX バス 1 と 2 を、USB オーディオチャンネル 1 と 2 に送出できます。信号の選択は [USB SEND] スイッチで行ってください。コンピューターからの音声は、最も大きい番号のステレオ入力チャンネルでプレイバックできます。プレイバック時は入力信号が 10dB 減衰します。また、RCA 端子からのステレオ入力信号とサミングされます。

※ [PHANTOM POWER] スイッチの隣の USB A 型端子は、USB 電源のランプなどに使用する給電専用端子です。データの送受信はできません。

USB SEND　—　USB オーディオチャンネルのルーティングスイッチ

USB オーディオチャンネルのルーティングを決定します。

USB オーディオチャンネルに送る信号を、マスターステレオバス (Left/Right)、または AUX バス 1 と 2 から選択します。押すと AUX バス 1 と 2 の信号を送出します。この場合、AUX バス 1 と 2 のコントロールは USB オーディオチャンネルのミックス専用になります。

マルチトラックモデル

マルチトラックモデルは、マルチトラックUSB入力 / 出力機能を備えています。各入力チャンネルは、対応するUSBオーディオチャンネルにポストゲイン、プリEQの信号を常時ダイレクトに出力します。入力チャンネルの番号はUSBオーディオチャンネルの番号に対応しています。
[USB RTN] スイッチで指定したUSBオーディオチャンネルを入力チャンネルに入力（リターン）できます。[USB RTN] スイッチをONにすると、チャンネルでコントロールする信号がUSBオーディオチャンネルの信号に置き換わります。
※ USBオーディオチャンネルは、入力時に10dB減衰します。

マスターステレオバス（Left / Right）は、USBオーディオチャンネルの最大番号のチャンネル（Signature 12MTKは13・14、22MTKは23・24）に常時送出されます。

この機能により、コンピューターベースのDAWなどで行うマルチトラックレコーディングおよびモニタリングのセットアップが容易になります。また、収録したショーのバーチャルサウンドチェックとして動作させることができます。

USB　—　USB デジタル入出力端子

デジタルオーディオ信号の入力および出力用の USB 端子です（B 型）

各入力チャンネルは、対応する USB オーディオチャンネルにポストゲイン、プリ EQ の信号を常時ダイレクトに出力します。入力チャンネルの番号は USB オーディオチャンネルの番号に対応しています（例えば、入力チャンネル 5 は USB オーディオチャンネル 5 に対応）。

USB RTN　—　USB リターンチャンネルスイッチ

USB オーディオチャンネルを入力チャンネルに入力（リターン）します。
押すと ON になります。ON にしたチャンネルは、対応する USB オーディオチャンネルの信号（プリ HPF/EQ）に置き換わります。
※ USB オーディオチャンネルは、入力時に 10dB 減衰します。

注：入力チャンネルの信号は、対応する USB オーディオチャンネルに常に送られています。したがって、USB バス > DAW > USB オーディオチャンネル入力（リターン）という経路で DAW ベースのプラグインを入力チャンネルのシグナルパスにインサートすることができます。

■ マルチトラックモデルのプレイバックについて

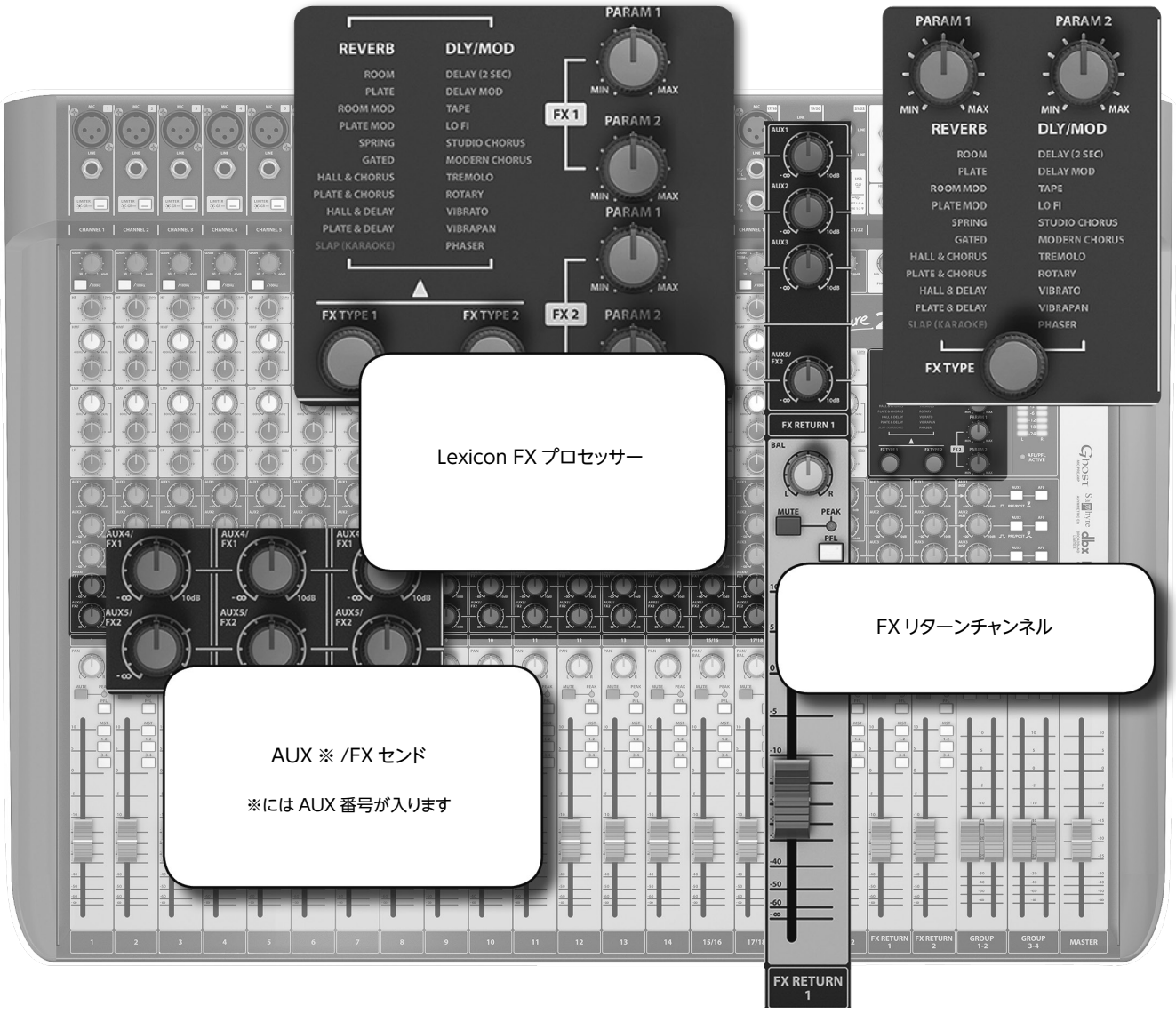
コンピューターに保存した音源（MP3 や WAV ファイルデータなど）を再生する場合は、ミキサーの最も大きい番号のステレオ入力チャンネル（再生チャンネル）を利用してください。コンピューターの出力を再生チャンネルに設定してください。

LEXICON FX

本機はLexicon FXプロセッサーを内蔵し、内部センド/リターンチャンネルを持っています。22種類のFXタイプが利用できます。それぞれ、[PARAM 1] と [PARAM 2] コントロールに割り当てられた 2 つの調整可能なパラメーターを持っています。

[AUX※/FX] つまみ(※にはAUX番号が入ります)は、入力チャンネルからFXバスとAUXバスの両方へ送る量をコントロールします。一方、FXリターンチャンネルは、FX で処理された信号を入力するステレオリターンチャンネルです。

※ Signature 22 と 22 MTK には、2 系統のエフェクトエンジンを搭載しています。

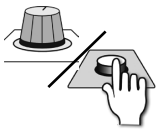


FX コントロール

内部 FX プロセッサーのルーティングは固定なので、操作は容易です。

FX を使用するには、入力チャンネルの [AUX※/FX] つまみ（※ には AUX 番号が入ります）で FX バスに送出するレベルを上げ、[FX TYPE] つまみで FX のタイプを決定し、FX リターンチャンネルのフェーダーを上げます。FX リターン出力のルーティングはマスターステレオバスまたはグループバス※から選択できます。

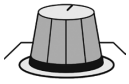
※ Signature 10 を除く。



FX TYPE　—　FX タイプ選択つまみ&スイッチ

Lexicon FX のタイプを選択、決定します。

つまみを回して FX のタイプを選択し、押して決定します。選択したアルゴリズムは白色で強調表示されます。[PARAM 1] と [PARAM 2] のつまみには、適切な Lexicon FX パラメーターがアサインされます。アルゴリズムの詳細は、P.38 の「リバーブについて」を参照してください。



PARAM 1 / PARAM 2　—　FX パラメーター調整つまみ

FX パラメーターを調整します。

FX のタイプに合わせ、アサインされた Lexicon FX パラメーターを調整します。[PARM 1][PARM2] にはそれぞれ異なるパラメーターがアサインされています。各 FX のタイプに使用されるパラメーターのリストについては、P.38 の「リバーブについて」を参照してください。

リバーブについて

残響（リバーブ）とは、密閉空間において人間の聴覚特性によって生じる複雑な効果です。音波は、物体や壁などに当たるとそこで止まるわけではなく、一部は物体に吸収されますが、ほとんどは反射または拡散します。密閉空間における残響は、その空間の広さ、形状、壁面の素材などのさまざまな特徴によって決まります。例えば、食器棚、ロッカー室、大ホールの違いは、目を閉じていてもすぐに聞き分けることができます。残響は自然界での音響体験の要素であり、残響がないとほとんどの人にとって不自然に聞こえます。

ROOM（ルームリバーブ）

ルームは、狭い部屋の音響特性をシミュレートするのに最適で、主にナレーション用途に役立ちます。また、アンプ録音のエレキギターのようにダイナミックな音を太くする効果もあります。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

PLATE（プレートリバーブ）

プレートリバーブのアルゴリズムは、オリジナルのプレートリバーブ効果をシミュレートしています。プレートリバーブは、スプリングの張力で垂直に吊り下げられた大きな薄い金属プレートを使用します。プレートに取り付けられたトランスデューサーに信号を送ってプレートを振動させることにより、広い空間で音が響いているような効果が得られます。プレートリバーブは、音楽の一部として原音に丸みや厚みを加えるためのもので、ポップス系の音楽、特に打楽器の効果付けによく使用されます。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

ROOM MOD（モジュレーションルームリバーブ）

モジュレーションをかけたルームリバーブです。モジュレーションをかけたリバーブは、人工的ですが、残響に活き活きとした劇的効果を加えた快適さが得られます。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

PLATE MOD（モジュレーションプレートリバーブ）

モジュレーションをかけたプレートリバーブです。モジュレーションをかけたリバーブは、人工的ですが、残響に活き活きとした劇的効果を加えた快適さが得られます。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

SPRING（スプリングリバーブ）

スプリングリバーブは、スプリングに接続された 1 組の圧電性結晶を一方はスピーカー、もう一方はマイクロホンとして働かせることによって生み出されます。スプリングが持つ「ボーイング（跳ねるような）」特性は、クラシックロックやロカビリーのギターサウンドに欠かせません。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

GATED（ゲーテッドリバーブ）

ゲーテッドリバーブは、スレッショルド設定を使用して残響音を急激にカットし、独特の効果を生みます。ポップス系の打楽器によく使用されます。

パラメーター 1：ライブリネス（初期反射レベル）
パラメーター 2：減衰時間

HALL & CHORUS（ホール & コーラス）

ホールリバーブにコーラス効果を組み合わせて、残響音の厚みを増しています。

パラメーター 1：減衰時間
パラメーター 2：モジュレーション速度

PLATE & CHORUS（プレート & コーラス）

プレートリバーブにコーラス効果を組み合わせて、残響音の厚みを増しています。

パラメーター 1：減衰時間
パラメーター 2：モジュレーション速度

HALL & DELAY（ホール & ディレイ）

ホールリバーブにディレイ効果を組み合わせたものです。

パラメーター 1：減衰時間
パラメーター 2：ディレイ時間

PLATE & DELAY（プレート & ディレイ）

プレートリバーブにディレイ効果を組み合わせたものです。

パラメーター 1：減衰時間
パラメーター 2：ディレイ時間

ディレイおよびモジュレーションについて

ディレイは、原音の発生後短時間で繰り返します。ディレイの出力を入力に戻すとエコーが得られます（フィードバック）。1 つの繰り返し音が一連の繰り返し音になり、繰り返すごとに徐々に弱くなります。

モジュレーション効果は、低周波発振器を使用し、周波数、振幅、フィルターパラメーターを時間に対して変化させます。

SLAP（KARAOKE）（スラップ – カラオケ）

スラップエコーは、クラシックロックンロール、ロカビリー、その他の「クラシック」なジャンルで典型的なボーカルエコー効果であり、カラオケでも人気があります。

パラメーター 1：リピート回数
パラメーター 2：ディレイ時間

DELAY（2 SEC）（ディレイ – 2 秒）

ディレイ時間 2 秒までの基本ディレイアルゴリズムです。

パラメーター 1：リピート回数
パラメーター 2：ディレイ時間

DELAY MOD（モジュレーションディレイ）

モジュレーションディレイは LFO（低周波発振器）によって、ディレイの繰り返しにコーラス効果を生じさせます。これは、「特別な何か」を求めるギターその他の楽器のフレーズにとって大きな効果を持つディレイです。

パラメーター 1：リピート回数
パラメーター 2：ディレイ時間

TAPE（テープディレイ）

デジタルディレイが登場する前は磁気テープをループ状にし、録音ヘッドと再生ヘッドを近接配置した特殊なテープレコーダーによってディレイを作り出していました。ディレイ効果は録音ヘッドと再生ヘッドの間をテープが移動することによって得られます。ディレイ時間はテープ速度を変化させることによって調整します。非常に音楽的な響きがしますが、テープエコーでの一般的な特性としては、ワウフラッター、高域成分の大きな損失、低域成分のある程度の損失などがあります。

パラメーター 1：リピート回数
パラメーター 2：ディレイ時間

LO FI（ローファイ）

帯域を制限したディレイによって、信号を心地よく劣化させます。クランチーな打楽器や、低音質効果が有効な場面に使用します。

パラメーター 1：リピート回数
パラメーター 2：ディレイ時間

STUDIO CHORUS（スタジオコーラス）

豊かなサウンドを生むコーラスは、2 つまたはそれ以上の信号を組み合わせて生成します。1 つは原音に手を加えず、他の信号は時間とともにピッチをわずかに変化させます。一般に、原音に色づけせずにトラックのサウンドを太くしたい場合やギターに胴鳴り感を加えたい場合に使用します。また、ボーカルトラックに厚みを持たせる場合にも使用できます。スタジオコーラスは、広いステレオ音像を持つ、スタジオ品質のコーラスです。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

MODERN CHORUS（モダンコーラス）

極めてリッチでスムーズな 2 声コーラスです。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

TREMOLO（トレモロ）

基本的なステレオ振幅（音量）モジュレーション効果です。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

ROTARY（ロータリー）

ロータリースピーカーキャビネットは、教会などで使用されていた電子オルガンに荘厳なビブラート／クワイア効果を加えるために開発されたものです。このアルゴリズムは、有名な LeslieTM スピーカーをエミュレートしています。これは、高音用のホーンと低音用のローターというそれぞれ逆方向に回転する 2 つの回転スピーカーを搭載しており、低速／高速の切り替えが可能です。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

VIBRATO（ビブラート）

ビブラートは、信号のピッチを一定の速度で滑らかに上下に変化させます。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

VIBRAPAN（ビブラパン）

信号間のビブラートの位相が可変のユニークな 2 声ビブラート効果です。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：変更／位相コントロール

PHASER（フェイザー）

フェイザーは、LFO（低周波発振器）によって信号スペクトルに対する周波数ノッチを自動的に上下に移動させることにより、周期的に変動する「櫛形フィルター」のような効果を生み出します。このエフェクトは、キーボード（特にパッド系プリセット）やギターに最適です。

パラメーター 1：モジュレーション速度
パラメーター 2：モジュレーションデプス

トラブルシューティング（出力されない場合）

マスターステレオ出力端子 (MST L、MST R) からミックスが出力されない場合は、まず初めに正しく入力しているかを確認してください。次に、信号のパスに沿って途切れる箇所を探します。P.13 の「コンソールルーティング」からのセクションを参照し、オーディオパスをチェックしてください。

検聴モードをチェック

入力チャンネルの [PFL] スイッチが ON になっている、または [AFL/PFL ACTIVE] インジケーターが点灯している場合は、検聴モードになっており、指定したチャンネル以外はミュートされています。この設定は、ヘッドホン出力のみに影響します。
すべての [PFL] スイッチ、および [AFL] スイッチを OFF にし、検聴モードを解除してください。

入力チャンネルの設定をチェック

[PFL] スイッチを ON にすると、ポスト EQ、プリミュート信号がヘッドホン端子に送られ、メインメーターに出力レベルが表示され、ヘッドホンで検聴できます。この時点で信号が出力されていない場合に考えられる原因は、[GAIN]（または [TRIM]）設定が低すぎる、コンデンサーマイクロホン、アクティブ DI などに対してファンタム電源が ON になっていない、チャンネルの [USB RTN] スイッチが ON になっているが USB リターンチャンネルに入力がない（マルチトラックモデルのみ）などです。

入力チャンネルのシグナルパス（P.14 の「モノラル入力」を参照）をチェックし、チャンネルのコントロールが正しくセットアップされていることを確認してください。

入力チャンネルのルーティングパスをチェック

[PFL] スイッチを ON にすればヘッドホン端子から出力がある場合、問題は入力チャンネル内部にあると思われます。これは単純に、ミュートが ON になっている、フェーダーが下がっている、ルーティングに問題がある、のどれかです。マスターステレオバスまたはグループバスへ送出した信号については、対応する送出スイッチ（[MST]、[1-2]、(または [3-4])）が ON になっている必要があります。また、[PAN] または [PAN/BAL] つまみが影響して、例えば信号がグループ 1-2 にルーティングされ、[PAN] が左に絞り切り（グループ 1）だと、グループ 2 バスからは何も聞こえません。

ミュートとフェーダーの状態をチェックし、チャンネルのルーティング設定が正しいことを確認してください。

バスマスターをチェック

信号をマスターステレオバスまたはグループバスにルーティングしている場合、または AUX バスへ送るレベルを上げた場合、そのバスのマスターコントロールを正しくセットする必要があります。例えば、信号がマスターステレオバスにルーティングされているが、マスターステレオチャンネルのフェーダーが下がっていると、何も聞こえません。

信号がルーティングされている先のすべてのバスマスターのコントロールをチェックしてください。

Lexicon FX が出力されない場合

内蔵 Lexicon FX を出力するためには、ソースとして有効な信号を入力する必要があります。[AUX※/FX] つまみ（※ には AUX 番号が入ります）を使用して、Lexicon FX バスへの送出レベルを増加させます。FX 処理した信号は FX リターンチャンネルに戻されます。通常の入力チャンネルと同様に、このチャンネルをコントロールします。このように、送出レベル、FX 処理、リターンチャンネルという 3 つの段階を正しく設定してください。

Soundcraft®
by HARMAN

●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

HIBINO

http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500　FAX: 092-611-5509

札幌オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712　FAX: 052-589-2719